

令和5年度(令和4年度実施事業分)主要事業評価シート										No.	26-1
PDCA	主要事業名		市営住宅維持管理事業		部課名		建設部建築課		担当		大岩
										内線	461
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 4 - 2 - 1 単位施策： 市街地										
	全体事業期間： 令和 4 年度 ～ 4 年度 全体事業費等： 66,766 千円										
	会計		一般会計		歳出科目： 07.06.01.02.01						
	事業概要等		事業概要： 市営住宅の入居中の住戸、共用部分の修繕及び真に住宅に困窮する者へ住まいを提供するため、退去した住戸の修繕を実施し、市営住宅を適正に維持管理する。								
			事業目的： 市営住宅の維持補修を継続して実施することで、入居者に安心安全な住環境を整備する。								
			事業内容： 市営住宅の維持管理及び入退去等に係る業務を実施する。								
			問題点・課題等： 市営住宅の老朽化等による維持管理に要する経費の増加が懸念される。								
	予算額		主要事業とする理由								
	66,766 千円										
	財源内訳		住みよい住環境を維持し、住宅に困窮する者へ安価な住まいを提供するため。								
	市費		得られる成果								
	0 千円										
	国費		市営住宅の住環境を整備することにより、維持管理及び入退去の円滑化を図ることができる。								
	0 千円										
県費		目標値や目指すべき状態									
0 千円				令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位				
その他		市営住宅入居戸数		実績値	672	621	—	戸			
				目標値	700	660	600	戸			
66,766 千円		新規入居戸数／新規募集戸数		実績値	—	34.6	—	%			
				目標値	—	30.0	30.0	%			
				実績値							
				目標値							
D 得られた成果と	決算額		得られた成果								
	65,706 千円										
			空き部屋の修繕を実施し、計画的な新規入居者募集を行ったことで、実績値が目標値を上回ることができた。また、共用部分の修繕を実施したことで、住みよい住環境を維持した。								
			成果指標							令和4年度	単位
			市営住宅入居戸数		実績値	604		戸			
					目標値	600		戸			
			新規入居戸数/新規募集戸数		実績値	40.0		%			
					目標値	30.0		%			
C 課題の整理	事業の評価・課題		B 定期的な抽選による新規入居者募集戸数を増やすことで、前年度を上回る入居を達成し、目標数を上回ることができた。								
A 課題後の決方向性	今後の事業の方向性		現状維持 全国的に身寄りのない高齢者等が増加し、保証人の確保が困難となることを踏まえ、連帯保証人の規定を廃止し、公営住宅の目的である住宅に困窮する者への住宅提供等に努めていく。								
	観点別評価		必要性		有効性			効率性			
			①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい		⑦コスト削減余地	ない		
			②市民ニーズ	低い	⑤成果向上の余地	ある					
			③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない		⑧受益者負担適正化余地	ない		